

重点項目についての環境配慮概要		内訳対応項目									
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①～)を示し記述してください。											
“ストップ温暖化しずおか行動計画”の推進(Gloval Warming)											
	■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策)/④部品・部材の耐用年数 外皮性能:Low-eペアガラス(5+A5+5)SC0.5程度、U3程度 昼光利用設備:特になし 昼光制御:外部ルーバー+ブラインド 外壁仕上材の補修必要間隔:エボキシ系吹付タイル、15年程度 主要内装仕上材の更新必要間隔:ビニルクロス貼り、10年程度 配線・配管材の更新必要間隔:16年～30年未満 主要設備機器の更新必要間隔:16年～30年未満	Q-1	2	2.1	2.1.3	①	外皮性能				
		Q-1	3	3.1	3.1.3	②	昼光利用設備				
				3.2	3.2.2	③	昼光制御				
		Q-2	2	2.2	2.2.1	④	外壁仕上材の補修必要間隔				
					2.2.2	④	主要内装仕上材の更新必要間隔				
					2.2.3	④	配管・配線材の更新必要間隔				
					2.2.4	④	主要設備機器の更新必要間隔				
	■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) 敷地内にある植物を保存し、新たな植栽を設ける。	Q-3	1			⑤	生物環境保全と創出				
			3	3.2		⑥	敷地内温熱環境の向上				
	■エネルギー対策 (⑦建物の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率の運用) 建物の熱負荷抑制:PAL値、-17% 自然エネルギー直接利用:特になし 自然エネルギー変換利用:特になし 設備システムの高効率化:特になし モニタリング:建物で消費される各種エネルギー消費量を年間に渡って把握し、消費原単位等を用いてのベンチマーク比較を行う。 運用管理体制:特になし	LR-1	1			⑦	建物の熱負荷抑制				
		2	2.1		⑧	自然エネルギー直接利用					
			2.2		⑧	自然エネルギー変換利用					
		3			⑨	設備システムの高効率化					
		4	4.1		⑩	モニタリング					
			4.2		⑩	運用管理体制					
	■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫低環境負荷材) 節水:節水コマ、省水機器便器 雨水利用:特になし 雑排水利用:特になし 躯体材料の再利用効率:特になし 非構造材料の再利用効率:特になし 持続可能な森林から算出された木材:利用なし 有害物質を含まない材料:確認なし 既存建築躯体などの再利用:利用なし 部材の再利用可能性:再利用なし 消火剤:ハロン消火剤の使用なし 断熱材:ODP=0の断熱材発泡剤を使用 冷媒:ODP=0の冷媒を使用	LR-2	1	1.1		⑪	節水				
				1.2	1.2.1	⑪	雨水利用システム				
					1.2.2	⑪	雑排水利用システム				
			2	2.1	2.1.1	⑫	躯体材料の再利用効率				
					2.1.2	⑫	非構造材料の再利用効率				
				2.2		⑫	持続可能な森林から産出された木材				
				2.3		⑫	有害物質を含まない材料				
				2.4		⑫	既存建築躯体などの再利用				
				2.5		⑫	部材の再利用可能性				
				2.6	2.6.1	⑫	消火剤				
				2.6.2	⑫	断熱材					
				2.6.3	⑫	冷媒					
■敷地外環境対策 (⑬温熱環境悪化の改善) 地域気象観測データ(アメダス)等にて風向、風速、卓越風などの風環境を把握	LR-3	5			⑬	温熱環境悪化の改善					
“災害に強いしずおか”の形成(Disaster)											
	■サービス性能対策 (⑭耐震・免震/⑮信頼性) 耐震性:地域係数Z=1.2、用途係数I=1.25 免震・制振性能:特になし 空調・換気設備:吊配管、空調の系統区分分け 給排水・衛生設備:節水型器具、雑排水の一時貯留ピット、井水の利用 電気設備:非常用発電設備、地下ピットに排水設備 機械・配管支持方法:耐震クラスB 通信・情報設備:光ケーブルPHS網などの通信手段の多様化、精密機械の地下空間の設置なし	Q-2	2	2.1	2.1.1	⑭	耐震性				
					2.1.2	⑭	免震・制振性能				
				2.4	2.4.1	⑮	空調・換気設備				
					2.4.2	⑮	給排水・衛生設備				
					2.4.3	⑮	電気設備				
					2.4.4	⑮	機械・配管支持方法				
					2.4.5	⑮	通信・情報設備				
“しずおかユニバーサルデザイン”の推進(Universal Design)											
	■サービス性能対策 (⑯機能性・使いやすさ/⑰心理性・快適性/⑱空間のゆとり) ユニバーサルデザイン計画:バリアフリー法の建築物移動等円滑化基準を満たす 階高のゆとり:4m 空間形状・自由さ:壁長さ比率0.16程度	Q-2	1	1.1	1.1.3	⑯⑰	ユニバーサルデザイン計画				
			3	3.1	3.1.1	⑱	階高のゆとり				
					3.1.2	⑱	空間の形状・自由さ				
	■室外環境(敷地内)対策 (⑲地域性・アメニティへの配慮) 地域性への配慮、快適性の向上:建物をセットバックさせ圧迫感の軽減、壁面緑化を行う	Q-3	3	3.1		⑲	地域性への配慮、快適性の向上				
“緑化及び自然景観”の保全・回復(Nature)											
	■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑳まちなみ・景観への配慮/㉑敷地内温熱環境の向上) 敷地内にある植物を保存し、新たな植栽を設ける。郷土種の保全に配慮した適切な緑地づくり。 人の通る場所に建築設備による排気、排熱による影響が及ばないようにする。	Q-3	1			⑤	生物環境保全と創出				
			2			⑳	まちなみ景観への配慮				
			3	3.2		㉑	敷地内温熱環境の向上				
	■敷地外環境対策 (⑲温熱環境悪化の改善) 地域気象観測データ(アメダス)等にて風向、風速、卓越風などの風環境を把握	LR-3	5			⑲	温熱環境悪化の改善				